

名古屋芸術大学グループ 通信

16
June
2011



〈特集〉
人間発達学部の取り組み

大学院人間発達学研究科が発足



Close up! NUA-ism ～進化する「名古屋芸術大」のDNA

NUA-OG

支える側の面白さ
米浜光代

NUA-STUDENT

自分で動けること、考えて動いて、今、楽しいですね。
人間発達学部 子ども発達学科 3年
岡田洋

心と心、繋がりが見える瞬間がありました。
人間発達学部 子ども発達学科 3年
荒木遼平

News/topics ニュース&トピックス

音楽学部

- 第38回卒業演奏会
- 大学院音楽研究科
第13回修了演奏会が行われました
- ミュージカル公演
「Sisters' War
～エリザベスとメアリー姉妹の争い～」が
行われました
- 名古屋芸術大学創立40周年記念事業
第33回オペラ公演「フィカロの結婚」が
上演されました

人間発達学部

- 人間発達研究所主催退官教員座談会

美術学部/デザイン学部

- 第38回 名古屋芸術大学
卒業制作展 講評会・論文発表/記念講演会
- 第15回大学院
美術研究科・デザイン研究科修了制作展
- 美術文化コース海外美術研修
- オープンキャンパス2011 [スプリング編]

大学/大学院

- 東/西キャンパス新入生歓迎会レポート
- 東日本大震災の募金・支援活動への取り組み

グループ校特集

学校法人 名古屋自由学院
名古屋芸術大学グループ 滝子幼稚園

コラムNUA

絵本の中の「秘密のサイン」
美術学部教養部会 講師 早川 知江

Master Artist

マスターアーティスト

我思う、ゆえに…
デザイン学部
講師 水内智英

Information

インフォメーション

- 2011年6月～10月までの主な行事・
イベントスケジュール
- 編集後記



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

- 名古屋芸術大学/大学院: 音楽研究科 学部: 音楽学部
- 美術研究科 美術学部
- デザイン研究科 デザイン学部
- 人間発達学研究科 人間発達学部
- 名古屋芸術大学保育・福祉専門学科 保育科 介護福祉科
- 名古屋芸術大学附属クリエイティブ幼稚園
- 滝子幼稚園



＜特集＞人間発達学部の取り組み 大学院人間発達学研究科が発足



名古屋芸術大学短期大学部が4年制学部へ移行されてから丸4年、初めての卒業生を送り出した人間発達学部の枠組みが、この春から再び大きく様変わりしました。一つは、大学院人間発達学研究科の設立、もう一つは、グループ校である「名古屋保育・福祉専門学校」が「名古屋芸術大学保育・福祉専門学校」へと校名を変更、本学との連携を一層深めることとなったことです。これらの変化で、わかりやすいポイントを上げれば、取得できる資格の違いです。大学院では、これまでの4年制課程で取得できる資格よりも、より高度といえる小学校教諭専修免許状、幼稚園教諭専修免許状、臨床発達心理士の受験資格の取得が可能となります。また、専門学校では、これまでは保育士資格と幼稚園教諭二種の免許状が取得できましたが、人間発達学部3年へ編入することによって、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得できる道がより明確になりました。

これら2つの変化について、もっと詳しい内容を、大学院人間発達学研究科長でもある佐藤勝利人間発達学部長、名古屋芸術大学保育・福祉専門学校副校長の藤澤卓美先生に伺いました。

佐藤 勝利

人間発達学部 学部長
大学院人間発達学研究科長



▶より専門性の高い教員の育成と、発達の専門家を養成する、この2つが大きな柱なんです

まずは、修士課程設立の目的を教えてください。

大学院としては、今年の4月に開設したわけですが、その4年前に短期大学であったものを人間発達学部という名称で4年制に改組しました。その4年制に改組したときに謳っていたことに、小学校の教員養成課程を併設することによる幼小連携ということがあります。自分が育てた子どもが小学校へ入っていったらどうなっていくか、どう発達していくのかまで見通すことができる幼稚園の先生、あるいは、

子どもたちの小学校へ入る前の段階のことがわかっている小学校の先生を養成したい。これらが4年制大学を作ったときの目標だったわけです。そうして、4年を経て、さらに大学院をということを考えたわけですけど、4年制大学を設立したときの目標をさらに押し進めたものを考えました。2つの柱を考えていまして、一つは、より子どもたちの問題に対応が専門的にできる教員養成というもの。それから、もう一つは子どもの発達についての専門的な助言ができるような、例えば育児カウンセラーのような、あるいは、先生をやりながら親御さんの相談に適切に対応できるような、発達の専門家を養成したいというのが狙いとなっています。

— 育児カウンセラーとしてや、育児の相談を受けられる発達の専門家の育成も目的の一つなんですか。

そうですね。幼小の高度な知識と技能を持った教員を作るということと、子どもの発達についての専門的な助言ができる、地域の指導も含めてですね、そんな専門職を目指しての発達科学が勉強できるということです。

— 地域の指導も含めた専門家なんですか？

福祉関係の領域に、地域支援という学問領域があります。大学院の設立にあたり、色々論議していく中で地域支援というものも盛り込む形になっていきました。じつのところ私も、言葉の響きで、地域でもって子どもの発達を支援するイメージかなと思っていたんですが、そうではなくて地域そのものを育てるんだということまで考えている。子育ての土俵としての地域を育てていくところまで視野に入れています。昨今、核家族化が進み、育児経験のない母親が相談できる相手がいないなど報道などでご存じのことと思いますが、そういったことに対応できるということだけではなく、地域に働きかけ、子どもが十全に育っていくような風土を育てていくことをも含めて考えられていることだと思います。残念ながらこういった分野の専門



家が本学にはおりませんでしたから、日本福祉大学の先生で地域支援を専門としていらっしゃる先生に非常勤の形で応援してもらって対応するようにしています。

— 大学院で取得できる資格として、専修免許状に加え臨床発達心理士の受験資格がありますね。

臨床心理士ほどは世間に知られておりませんが、少しずつ知られるようにはなっていますね。保健所や小児科等の求人などでも要件に加えられることが増えてきているようです。これは、資格認定の機構がやっている民間の資格で、国家資格ではないんですけども大学院を終わることが、基礎資格となっています。大学院で臨床発達心理士に必要な科目を規定の単位取っていれば受験資格を満たすことになるというやり方です。足りない分は、認定機構が行う講習会で補っても良いと、そういうことになっています。

●●●

▶ **芸術大学の中に教員養成の学部があることの強み**

— 本校の大学院の大きな特色とはどんなことでしょうか？

やはり芸大にある大学院だということですね。子どもの感性が育つようなということを考えて授業を起こしてはいます。他の大学にはないことと言えば、芸術的な感性をもった発達の専門家を育てること、と

なるわけですが、実際のところ、まだまだ十分に中身が詰まっているとは言えないのです。芸術的な環境の中で、教員育成することにこんな意味があるんだということちゃんとデータを揃えて実証していかなければなりません。人間発達学部の教員の間では、まずはリサーチレベルで共同研究を始めませんかみたいな声が出ていまして、今後、具体的になっていくだろうと期待しております。それから、人間発達学部内の文化交流会みたいな催しを学科の方で企画してやったんですが、学生の方が芸大という名称が付いているからなんでしょうか、入学してくる子たちが、例えば、高校時代にブラスバンドをやっていて県代表として出ていたとか、そういった経歴を持っている子が結構いるんですね。そういう文化的な、音楽であったり美術であったりみたいなものを含めてですね、それぞれの学生の特技を発表させるという会をやったんですよ。かなり評判が良くて、先生方にも学生たちもかなり生き生きとしてやっているんですね。音楽家になる、アーティストになる、というわけではないけれども、やっぱり単なる教員育成大学とはちょっと違うつもりで来ている子たちがいるんだなと、あらためて感じましたね。学校側が用意する特色ではありませんが、学生の特色としては際立っています。大学院の方もその延長で行けるのかどうかわかりませんが、今年来ている人の中の1人は、音楽療法の専攻から来ています。子どもの発達を考えたいということですけども、音楽療法との接点でやってみたいみたいな、そんなことができる場になるのかなと思います。

— 学生の主体性によって、やりたいことを自由にやっていける可能性がある？

(力強く)そうですね。可能性はあると思いますね。枠組みは整っています。

●●●

▶ **強力な教授陣が揃い、かなり期待をしております**

— 4年制の立ち上げに携わった先生と入れ替



■ 金田 利子 教授 ■

専門領域：子ども学
授業科目：子ども学特論、子ども学特演

子ども学とはどんな学問か。これまでの諸説を整理し、歴史的に考察する。つづいて、今日の諸説の到達点に共通する子ども学としての特徴をひきだす。子ども学の源流を尋ねつつ、子ども学が現代社会を見直す上で、どのような意義をもつかについて追究する。

お茶の水女子大学家政学部児童学科卒業
お茶の水女子大学大学院家政学研究科児童学専攻修了
日本保育学会評議員
世界幼児教育保育機構日本委員会会長
日本世代間交流協会副会長
日本世代間交流学会副会長
臨床発達心理士、学校心理士



■ 星 三和子 教授 ■

専門領域：発達心理学
授業科目：発達心理学特論、発達心理学特演

社会文化システムのなかで子どもの発達を捉える見方、及び周囲の人々との関係性の観点で発達のダイナミクスを解釈する見方を中心に発達心理学の最新の理論を講義し、教育・保育現場の子ども、発達障害をもつ子どもの理解と支援について考える。

東京女子大学文理学部心理学科卒業
東京大学大学院教育学研究科修士課程修了(教育学修士)
パリ第5大学発生心理学博士課程修了(DEA取得)
東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学
臨床発達心理士



■ 中田 照子 教授 ■

専門領域：児童福祉学
授業科目：児童福祉学特論、児童福祉学特演

社会の変化と子どもの権利擁護を考えることをテーマとし、社会の変化と子育てについて考察する。多文化共生社会における子育てをテーマとし、子どもの権利と社会的子育てシステムについて理解を深める。

南山大学社会科学部卒業
日本社会福祉学会理事等を歴任

わる形で、新しい先生方が赴任されます。

先ほども申し上げましたが、地域支援のように他大学の専門家にお手伝い願う部分もありますが、専任として金田先生、星先生、中田先生の、3人の先生に来ていただきました。ちょっと私がこんなことを言っているのかわかりませんが、各分野の非常に素晴らしい方々に来ていただくことになり、とても喜んでおります。金田先生は、世界幼児教育機構日本委員会の会長を務めているような方なんです。星先生は、発達心理学の先生ですが、発達心理学会で海外交流の理事をやっておられて、フランス語に堪能で、時々、パリ大学で講義を持たれるような人。中田先生も、日本社会福祉学会の理事をやられた方です。このような先生方が大学院の立ち上げというときに来て下さって、かなり期待をしております。

一 錚々たる布陣ですね。

そうですね。ガイダンスのときにも学生たちには先生の方には不足はないはずと、『あとは君たちのやる気だけだよ』という話をしたんです(笑)。

...

▶ **強みを活かして、看板の一つになれるように**

一 初年度は何名が院生となったのですか？

じつは、文科省に夏前に申請し、認可が下りたのが11月なんです。そんなこともありPRが不足したこともあって初年度は2名と、少々寂しい状態です。定員10名の枠ですので、来年度はできる限りそれに近づきたいですね。大学院というのは、経営的な面でも、マンパワーの面でも厳しいものです。それからやはり、芸術大学の中での教員養成ということの検証、このことを進められればいいですね。他の大学では、芸術学部や音楽学部の先生が、幼児教育の学生を担当することで非常に上手くいっている例もあるようです。本学でも、一部、人間発達の授業を音楽学部や美術学部の先生に受け持ってもらっていますが、学部の枠を超えた取り組みといたしましてか交流ができれば、さらに面白いことができる可能性がある。これからの大きな課題の1つであると考えています。





▶校名変更の趣旨と 将来展望

藤澤 卓美

名古屋芸術大学保育・福祉専門学校副校長

本校は、1958年(昭和33年)の開校以来、2度目の校名変更となります。1度目は、時代の要請を受けて介護福祉科を新設した際に、「名古屋保育専門学校」から「名古屋保育・福祉専門学校」へと校名変更を行いました。そして、今回、「名古屋芸術大学保育・福祉専門学校」へと、2度目の校名変更に踏み切った次第です。

今回の校名変更の趣旨は、言うまでもなく、本校の将来を見据えての変更であります。その具体的な理由は、次の2点にあります。

一つ目は、本校の教育理念のさらなる具現化を図るために必要であると考えたからです。本校は、教育理念である「誠の心と奉仕の心」を自己の中に育んだ人間エリート保育者・介護福祉士養成を目指しています。そのために、学生一人ひとりに「確かな実践力」と「豊かな人間力」を育成することに力を注いできました。しかし、現在、保育現場、介護現場では、確かな知識や技術の必要性とともに、よりいっそう人間的な豊かさや深さが求められる時代となってきました。そのためには、これまで以上に学生の人間的な感性や魅力を高めていく必要があると考えます。名古屋芸術大学とのさまざまな場面での交流を図り、連携を深めていく中で、こうした方向性がより確かなものになっていくものと考えています。

二つ目は、本校に入学する学生の可能性を広げることができると考えたからです。本校保育科に在籍する学生は、卒業とともに保育士資格と幼稚園教諭2種の免許が与えられます。名古屋芸術大学人間発達学

部3年への編入が認められた現在、この二つの資格とともに、幼稚園教諭1種、小学校教諭1種免許を名古屋芸術大学において取得することが可能になりました。経済的にやや恵まれない学生が多い本校学生の立場に立つと、本校で2年、名古屋芸術大学で2年の単位取得により、新しい可能性が生まれたのです。制度ができてからの2年間、希望する学生がまだでない状況ですが、本校を希望する高校生の中には、このコースに魅力を感じて本校を志望する生徒も出てきました。名古屋芸術大学という冠が、このコースのイメージをより確かにしていくものと考えています。

保育科昼間部は、昨年から少人数学級制(30人×2クラス)を実施しました。その結果、充実した授業が展開されるとともに、学生の授業に向かう姿勢も高まり、退学者は半減しました。学生の立場に立ったこうした改革は今後も進めていかなくてはなりません。今回の校名変更が学生のためにいろいろな場面で有効に機能するよう工夫を重ねていきたいと考えています。

アート&デザインセンター／オープンキャンパス



アート&デザインセンター 2011/2012 展覧会スケジュール

※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

Open / 12:15~18:00(最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日休館
【入場無料】どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先 / (0568)24-0325(代)

- 6月 3日(金)~ 6月 8日(水) 『版の方法論#6~木版編~バンコクと名古屋から』展
『木版画Selection』展
- 6月10日(金)~ 6月15日(水) 名古屋芸術大学教員展
- 6月17日(金)~ 7月 6日(水) 2011年度夏の企画展
浅葉克己 U.G.サトー 松永真 「3人のポスター」展
- 7月 8日(金)~ 7月13日(水) 洋画2コース選択展覧会
2011年度 前期交換留学生作品展
- 7月15日(金)~ 7月20日(水) 洋画1コース3年展
- 7月22日(金)~ 8月 3日(水) 素材展

- 9月16日(金)~ 9月28日(水) 2011年度秋の企画展
『ネーデルランド・ナウ2011:リーヴェン・ヘンドリクス×満江英典』展
ソフトスカulptureアヘ12展
- 9月30日(金)~10月 5日(水) アーッ! ラジオ a'aart RADIO! 展
- 10月 7日(金)~10月12日(水) 『Hand Hospace:医療と美術』展
- 10月14日(金)~10月19日(水) 『パーメントと名古屋2011』展
- 10月21日(金)~10月26日(水) JAGDAサンデースクール
- 10月28日(金)~11月 2日(水) 名古屋芸術大学大学院 洋画制作展 2011
- 11月11日(金)~11月16日(水) 彫塑コース作品展
歌を絵にするー授業作品展ー
- 11月18日(金)~11月23日(水祝) 『遭遇するドローイング:ハノーファー&名古屋2011』展
- 11月25日(金)~11月30日(水) MCD department
- 12月 2日(金)~12月 7日(水) 2011年度 後期交換留学生作品展
『幼稚園児たちのゲイジツ』展
- 12月 9日(金)~12月14日(水) メディアデザインコース作品展2011
- 12月16日(金)~12月21日(水) 工芸領域 2・3年生展
- 1月 6日(金)~ 1月11日(水) 日本画 3年作品展
- 1月13日(金)~ 1月18日(水) 美術学部コース展
- 1月20日(金)~ 1月25日(水) 『AFTER DENMARK:石田典子+伊藤里佳』展

2011年度 オープン キャンパス

■ 音楽学部
6月18日(土)10:00~
9月25日(日)10:00~

■ 人間発達学部
6月18日(土)10:00~
7月23日(土)10:00~
8月27日(土)10:00~
9月25日(日)10:00~

■ 美術学部・デザイン学部
6月12日(日)10:00~
7月17日(日)10:00~
9月25日(日)10:00~

■ 夏期音楽講習会
申込期間:6月13日(月)~7月8日(金)
講習期間:8月 2日(火)~8月5日(金)
(サウンド・メディアコースは8月6日~8月7日)

■ 一日芸大生
(美術学部・デザイン学部)
7月31日(日)10:00~16:00

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



本学、OB、OGが多数出演するコンサートも担当。
6/26、7/18 電気文化会館・ザ・コンサートホール
出演：菊池京子(卒業生)、福澤元貴(卒業生)、岩田亜衣(卒業生)、岸豊大(卒業生)、西元佑(大学院2年)、伊藤貴之(卒業生)、沼波俊太郎(学部3年)、中村真由(卒業生)、稲場薫(卒業生)、西端祐哉(卒業生)、久野絵里(卒業生)、近藤加奈子(卒業生)

お問い合わせ：(株)OFFICEリラン
052-733-8809



Vol.30
NUA-OG
米浜光代

(よねはま みつよ)
株式会社OFFICEリラン 代表取締役
1971年 愛知県生まれ。
1994年 音楽学部音楽教育学科卒業
1995年 フリーでマネジメント業をはじめ
2001年 マネジメント会社「OFFICEリラン」設立
大学卒業後、音楽関係の会社に勤めるものの、マネジメント業に憧れ1年で退社、フランスでマネジメント業を始める。名古屋二期会、名古屋オペラ協会などのオペラ制作補佐を務め2001年にマネジメント会社「OFFICEリラン」を設立。以降、順調に業務を拡大し、2007年に株式会社へ移行。
クラシックコンサート、オペラ、バレエ公演のマネジメントを手がける一方、さまざまなイベントに演奏者を派遣、音楽空間の提供にも力を注ぐ。

株式会社 OFFICEリラン
052-733-8809
URL <http://office-rerun.com>
Mail rerun@mbi.nifty.com

支える側の面白さ

テキパキとした受け答えやサッパリとした話し方が印象的。とてもハンサムな女性だ。「兄と弟がいるんですが、弟は自分のことを三男だというんですよ(笑)」

聞けばお父上は工学系の研究者で起業家、ご兄弟は理系の研究職、親族にも起業家のいる実業一家とのこと。音楽学部出身でありながら、マネジメント会社を立ち上げたことは、「結果的にそうなった」というが、当然の帰結だったのかもしれない。



「母親が、自分が音大に行きたかったようで、それで私にピアノを習わせて、音大へ行きなさいと。洗脳されて育ちました(笑)」音楽は大学でやると決めていたので高校は普通科へ進み、音楽以外のことばかりやっていたというからユニーク。大学へ入ると、音楽にすべてを打ち込んでやってきた他の学生とは隔たりを感じた。「知識の差に驚きましたね。オペラの写真を見ただけで衣装から演目がわかったり……。受験の勉強しかしてなかった私には全くわからなくて、すごく悔しかったことを憶えています。舞台は1本も見たことなかったですし……」それから図書館に通い詰めて手当たり次第にオペラを見たという。

ピアノでも苦労した。「先生のおっしゃ

ることがわからなくて。それまで習ってきたことと全然違う視点から指摘されることが、当時の私には全く理解できず、練習したくなくなっていって……。3年になっての選択科目では、迷うことなく声楽を選びました」こうしたことが、偶然にもオペラと深く結びついて行くきっかけとなる。

学内のオペラ公演でインスペクターを務めたことが大きな経験となった。「ピアノの練習などで実技補助員の方々を見ていて、支える側の仕事に興味を惹かれたのが始まりですね」オペラのインペクでは、なんとか学生が主役をやるように、先生にくっついてかかることもあったと表情をゆるめる。

インペクの経験で、卒業後も音楽を支える仕事がしたいと考えるようになったが、一旦は楽器会社へ就職した。しかし、夢を諦めきれず1年で退職、念願だったマネジメントの仕事始める。「先生に頼れるのも、卒業後1年くらいの間だけかなと思って。でも、すぐにはお金になるようなことは無理だと。だから、『御代はいくらでもいいです。働きを見て、見合う分下さい』とお願いして仕事を始めました」

30歳まで頑張ってみて、頭を下げなければ仕事来ないようなら辞めよう、そんな覚悟で始めた仕事だが、30歳にな



2009年10月、本学音楽学部同窓会より卒業後も活躍している卒業生に送られる『ゴールドンプライズ賞』を受賞。

る頃にはマネジメント会社を設立するほどに成長していった。

遠ざかってしまったピアノだが、卒業してしばらく経った頃、当時ではわからなかったことの意味に気付いた。すぐに先生に連絡し、「もう一度教えて下さい」と請うた。闊達さ、いい意味での拘りの無さには、感じ入ってしまう。



「やっぱり、ありがとうって言われるのがうれしいですよ。一緒に働いてくれている子も、バイトの子でも、同じように感じて欲しいんですよ」“初心忘るべからず”“120%の努力が本番を救う”“役者は花、スタッフは根”…口をつけて出る格言よりも、仕事と芸術に寄せる情熱と行動に魅了される。

自分で動けること。考えて動いて、今、楽しいですね。



Vol.31
NUA-STUDENT
岡田洋
(おかだ ひろし)
人間発達学部 子ども発達学科
3年

東日本大震災、被災地の子どもたちにおもちゃを送ることを、仲間たちと画策中。人間発達学部の学生として、何かやらなきゃ、何ができるか、と頭がいっぱいになっているという。「子どもたちがどうしているかと思うと、放っておけないような気持ちです。本当は、現地へ行ってみたいんです。子どもたちの姿を、とにかく見てみたいんです」3年になり実習のスケジュールが多く、時間が取れないことをもどかしそうに話す。

小学校の頃の恩師に憧れ、小学校教諭を目指す3年生。目標は小学校教諭だが、幼稚園教諭、保育士と、本学で取得できる免許をすべて取得しようと奮闘中だ。「1年のときは、自分を見失っていて、結構、遊んでいました。でも、2年になる頃、ふと、自分は何の為に大学へ入ったんだっけ？先生になろうとしてたんじゃん！」と思い起こし、それ以来、一直線に猛進している。「できるだけ子どもとふれあう時間を作りたくて……」授

業が終わった後は、学童保育の指導員のボランティア、アルバイトはスイミングスクールのインストラクター、学習塾の講師、自分が通っていた小学校のサッカー部で人員が不足していると聞けばコーチとして赴く、といった具合に大学以外の生活もすべて“子ども”に繋がっている。「考えるより先に動きたいんです。動かないと何もできないと思うし。今は、やりがいを感じています」

夢を実現したいと思い立ち、青年はひと皮むけ、大人への道を駆け出した。楽しいに「時間がない！」と話す姿からは、心の充足が見て取れる。ひたむきな清々しさが心地良い。



心と心、繋がりが見える瞬間がありました。



立て板に水のごとく、言葉がよどみなく溢れ出る。きれいな関西アクセントだが生まれ育った三重のことばだそう。生粋の関西弁よりも、どこか優しい伊勢弁だ。そんな調子で語られる自分の思いは、一層の熱を帯びて聞こえてくる。「父親が小学校の教師、母親は、今は働いてないですけど保育士だったんです。その影響で、自分も先生になりたいと……」高校時代は理系を選択していたが、いざ進路を決めるときになり、本当は小学校の先生になりたいのだと悟った。「家に帰ってからも残業したり教材研究したり、父親の忙しさを知ってはいるんですけど、それでも続けられるものって、どんなものだろうと思ったんです」父母の生業に強く惹かれていった。大学2年になり、保育園での実習、小学校での体験実習を済ませた。「自分の経験でこれし

か答えは無と思う事を、子どもたちの柔らかく純粋な発想が、時としてそこにいる全員を納得させる時がありました。この時、子どもたちの未知なる可能性を自分の手でもっと引き出したいと思いました。2週間しかないんですけど、そんな短い間でも、実習生としての私と子どもたちとの間に心の繋がりが見える瞬間があったんですよ」緊張の中に始まった実習だが、子どもたちに受け入れられ、やみつきになったと目を輝かせる。小学校教諭が希望だが、やはり幼稚園、保育士の資格も取得しようと忙しい毎日を送る。「子どもの教育って、上から下へではなく、成長に合わせて考えるべきじゃないですか。だから『小・中・高』よりも『幼・保・小』を学びたいんです」

学生自治会の活動にも汗を流す。芸大祭の準備は大変ながらも楽しい仕事だという。子どもたち、学生同士、人を結びつけ動かして行く熱意は同じものようだ。



Vol.32
NUA-STUDENT
荒木翔平
(あらき しょうへい)
人間発達学部 子ども発達学科
3年

音楽学部

第38回 卒業演奏会

2011年3月3日(木)・4日(金)の両日、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで、名古屋芸術大学音楽学部の第38回卒業演奏会が行われました。

卒業演奏会は、出演者にとっては大学4年間の学業の成果を示す最後の発表の場であり、音楽学部にとっては、各コースの教育成果を公表する特別な演奏会といえます。本年度は、この春の卒業試験で優秀な成績を収めた学生が、初

日の3日に15名、二日目の4日に13名、合わせて28名が出演し、独奏や独唱のかたちで舞台上に臨みました。

指導教員をはじめ家族や友人が見守る中、日頃の練習の成果を十分に発揮するすばらしい演奏を披露してくれました。

また、優秀卒業論文の発表も行われ、音楽文化創造学科音楽教育選択コースで3名、同学科音楽療法選択コースで4名、同学科音楽



ビジネス・ステージマネジメント選択コースで1名が、さらに、優秀作品の発表では、同学科サウン

ド・メディア選択コースで1名が選ばれました。

音楽学部

大学院音楽研究科 第13回修了演奏会 が行われました

2011年3月9日(水)～11日(金)まで、名古屋芸術大学大学院音楽研究科の第13回修了演奏会が、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで開催されました。

この演奏会は、今春大学院音楽研究科修士課程を修了する院生全員が、オーケストラ/コレギウム・アカデミカと共演する構成で、独奏・独唱とオーケストラが織りなす色彩豊かな演奏が特色となっています。コレギウム・アカデミカは本学大学院の演奏研究グループで、大学院音楽研究科、大

学音楽学部にも所属する教員・卒業生を中心組織されたオーケストラです。

濱津清仁氏(2004年ウィーン学友協会黄金ホールにて、オーストリア・ウィーン放送交響楽団を指揮し、鮮烈な楽壇デビューを飾った。将来を期待されている逸材として注目を集めている指揮者)がオーケストラの指揮を執り、作品発表をはじめ、ソプラノ独唱、フルート・チェロ・ピアノ・ヴァイオリン・電子オルガン・ティンパニ独奏など、各研究領域における



熱演が繰り返されました。

職業人としての歌手や演奏家が引けを取らないすばらしい歌唱力

や堂々とした演奏に、客席を埋めた聴衆から盛大な拍手が送られていました。

音楽学部

ミュージカル公演 「Sisters' War ～エリザベスとメアリー・姉妹の争い～」 が行われました

2011年3月19日(土)、20日(日)の両日、名古屋市青少年文化センターアートピアホールで、名古屋芸術大学音楽学部主催のミュージカル「Sisters' War ～エリザベスとメアリー・姉妹の争い～」が上演されました。

本学ミュージカルコースは、コース開設以来、オリジナル作品の創作・上演に力を注いでおり、脚本から演出、作曲、振付、舞台美術、演奏など全てが本学の教員・研究員・学生の手で行われるのが最大の特徴です。創作された作品は、名古屋地区だけではな

く、高山市・関市・金沢市・姫路市などでも上演されており、その都度高い評価をいただいています。

今回のミュージカル「Sisters' War」は、ブラディー・メアリーと呼ばれた残酷なスコットランドの女王・メアリー・スチュアートとイングランドの女王・エリザベスの確執に題材を得ています。優しさとその裏側にある残酷さ、一寸した行き違いから、許すことより許さないことを選んだ二人の女王。その確執が巻き起こす悲劇と喜劇をミュージカルに仕立てショ



ウアップしています。人間だから残酷な行為をする、人間だから残酷な行為を嘆く、そんなテーマのミュージカルです。

ステージで繰り返される華麗な演技と客席が一体となり、熱い興奮に包まれるミュージカル公演は、聴衆に感動を与えてくれま

す。熱演する学生達にホールを埋め尽くした客席から盛んな拍手が送られていました。

ミュージカルコースの4年生にとっては、毎年、今回が最後の公演（卒業公演）となります。終演

後、4年生代表者によるお礼とお別れの挨拶が行われました。一人ひとりの思い出を胸に巣立つ学生

達に、暖かく励ましの拍手が鳴り響いていました。

音楽学部

名古屋芸術大学創立40周年記念事業 第33回オペラ公演「フィガロの結婚」 が上演されました

2011年2月19日(土)、20日(日)の二日間にわたり、名古屋市芸術創造センターにおいて、名古屋芸術大学創立40周年記念事業の一環として、第33回名古屋芸術大学オペラ公演「フィガロの結婚」が上演されました。

この作品は、モーツァルトの代表作であるとともに、多くのオペラの中でも最も親しまれているオペラの一つといえます。今回は、名古屋芸術大学オーケストラが、韓国の釜山東西大学校大学院の教授でもある白 鎮鉉氏を指揮者にお迎えし、演奏を行いました。

「フィガロの結婚」は、原作は1781年に書かれたフランス人劇作家・ボーマルシェの戯曲で、アメリカでは自由と平等を謳って独

立戦争が勃発し、フランス国内ではフランス革命に向けて貴族や領主たちへの反感が日ごとに高まっているという時代背景の中で書かれたものです。この物語は、前作「セビリアの理髪師」の好評を受けての続編で、「セビリアの理髪師」でめでたく結ばれたアルマヴィーヴァ伯爵とロジーナ夫妻が、夫婦の愛情が薄れてきたときに起きる浮気や不貞を、伯爵の下僕であるフィガロとスザンナとの結婚を挟んで描いたドタバタの歌劇です。

オペラは、声楽だけでなく多くの要素で成り立つ総合芸術であり、学生にとっては授業以上に多くのことを学べる機会となっています。今回33回を迎えた本学の

オペラは、これまで海外の大学の学生との共演や、東海3県下各地での公演、北名古屋市の中学校でのオペラ鑑賞教室など、多彩な活動を精力的に行ってきています。

今年の「フィガロの結婚」には、本学教員を始め、卒業生、研究生、大学院生、学部生など多彩

なキャストが出演し、最高の歌と演技を披露してくれました。

ご来場いただき、会場を埋めた満員の聴衆からは惜しめない拍手が送られ、創立40周年記念事業にふさわしいすばらしいオペラ公演となりました。



人間発達学部

人間発達研究所主催 退官教員座談会 (平成23年3月2日)

参加者（肩書き当時）

【退官される先生】

太田悦生学部長、三神廣子教授、田邊光子教授

【人間発達研究所から】

鈴木岩雄准教授、東條文治講師

平成23年3月に第1期卒業生を送り出すこととなった名古屋芸術大学人間発達学部は、平成19年4月に名古屋芸術大学短期大学部を前身として発足しました。完成年度を終えて本学部の設置に大きく尽力された先生方も数名定年退官されることになり、発足に関わる苦労話や本学部の今後に期待する思いを交流し貴重な記録として残すことを目的として座談会を人間発達研究所で企画させていただきました。平成23年3月2日に開催された座談会では、懐かしい思い出話に花が咲き、先生方の本学部への熱い思いをたくさん聞くことができました。

名古屋芸術大学短期大学部を4年制の学部へという案は10年以上前からあり、長い時間をかけて議論を続け、案を練ってきたそうです。当時は夜9時に大学が閉まると、資料を持って近所の喫茶店に場所を移し、夜が更けるまで新学部の設立へ向けた話し合いをすることもしばしば。当初は、「芸術大学に保育系の学部ができたなら芸術性が薄まってしまうのではないか?」、といった見方も他学部の先生方の中では根強く、4年制の学部として新設することに理解を得ることが難しかったそうです。

平成15年頃から法人を中心にプロジェクトチームが立ち上がり、設立準備委員会など各種委員会で正式な議論が重ねられるようになってから、4年制大学への議論は大きく進みました。結果として長い議論を重ねてきた先生方か

ら見ると、平成19年の発足という時期は4年制への移行の価値が失われぬぎりぎりのタイミングに感じるといいます。その後には両後のタケノコのごとく同様の学部が新設ラッシュとなる中で、なんとかそれに先駆けることができたことは大きかったという思いが強いのだそうです。心配していた卒業生の進路・就職率も学生の予想以上の奮闘があり、結果を出すことができたのではないのでしょうか。

これからの本学部については、総合芸術大学の中に保育士・教員養成の学部があることを強みとして、他の大学ではできない“芸術

的なセンスをもった保育者”を育てることに大きな期待を語られました。「芸術的なセンスのいい学生は保育のセンスもいい」、これは長年保育・初等教育の分野で活躍された先生方の一致した見解。学部間での授業交流をめざしたカリキュラム改編なども進むタイミングでもあり、音楽学部、美術学部、デザイン学部との交流を深めて、本物の芸術と芸術教育に邁進する先生方や他学部の学生達との交流の中で、名古屋芸術大学の人間発達学部で学び保育士や教員になってよかったと思える教育環境を整えてほしいとの熱いエールをいただきました。



写真左から 田邊光子先生、鈴木岩雄先生、太田悦生先生、三神廣子先生

美術学部

デザイン学部

第38回名古屋芸術大学 卒業制作展・講評会・論文発表／記念講演会

第38回名古屋芸術大学卒業制作展が3月8日(火)～13日(日)まで、愛知県美術館ギャラリー、名古屋市市民ギャラリー矢田、本学西キャンパスの3会場で行われました。

期間中各会場では、美術学部・デザイン学部のコースごとに、本学担当教員及びゲストによる作品の講評会が実施され、卒業作品をプレゼンテーションした学生に対して、ゲストや担当教員から様々な批評やアドバイスが送られました。

3月11日(金)午後には、美術文化

学科の第7回優秀卒業論文発表会が愛知芸術文化センター 12階のアートスペースであり、また、同会場で夕刻6時からは、メディアデザインコースの映像作品上映会が行われました。作品上映会は12日(土)まで行われました。

また、毎年行われている記念講演会は、本年度は、日本を代表する写真家である篠山紀信氏が登壇し、「現代を激写する」という演題で、自身のこれまでの活動を振り返りながらのお話と、その代表的な作品などを映像で紹介してく

だしました。

卒業制作展とその関連イベントには、本学関係者はもちろん、一

般の視聴者を含めて大勢の方々が参加され、学生たちの思いを込めた作品に見入っていました。



美術学部

デザイン学部

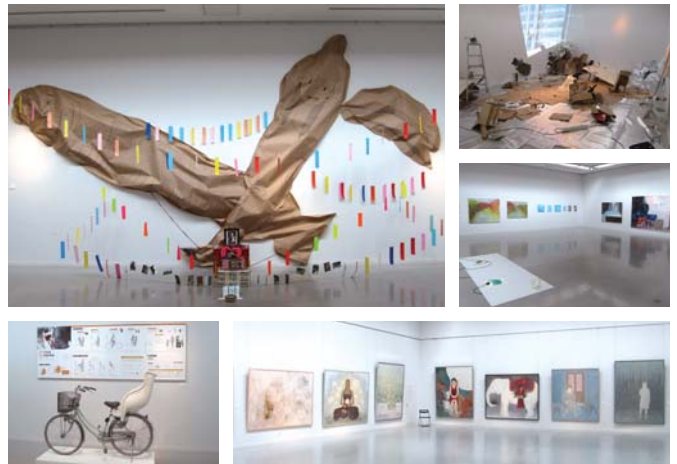
第15回大学院 美術研究科・デザイン研究科修了制作展

名古屋芸術大学大学院美術研究科及びデザイン研究科の第15回目の修了制作展が、3月1日(火)～6日(日)まで、名古屋市東区の名古屋市民ギャラリー矢田で開催され、この春、大学院修士課程を修了する学生たちの専門的研究と研鑽を重ねて制作された作品が一堂に展示されました。

美術研究科美術専攻では、絵画研究(日本画制作)と絵画研究

(洋画制作)及び同時代表現研究各専攻生の2年間の集大成である自己表現としての作品が展示されました。デザイン研究科デザイン専攻は、3Dデザイン研究、クラフトデザイン研究生の感性と専門分野の知識に裏付けられた作品が見られました。

期間中、友人や家族、卒業生や後輩など大勢の関係者が訪れ、熱心に鑑賞していました。



美術学部

美術文化コース 海外美術研修

美術学科が発足時に美術文化コースに新設された科目「海外美術研修」の授業を本年2月28日から3月6日までの日程ではじめて行いました。参加者は3年生5名と引率の栗田の計6名、研修地に選ばれたのはパリでした。パリほど中世から現代までの美術を集中的に学べる土地はほかにないと考えたからです。見学は次の日程で行われました。

- 3月1日 ノートルダム大聖堂、サント＝シャペル、オルセー美術館
- 3月2日 オランジュリー美術館、ルーヴル美術館(イタリア)

- 3月3日 ルーヴル美術館(北方、フランス前半)、国立中世美術館、ポンピドゥーセンター
- 3月4日 ヴェルサイユ宮殿、ルーヴル美術館(フランス後半)

学生たちには各訪問場所でもらった説明役を担ってもらい、授業に積極的に取り組んでもらいました。参加した学生の感想には、図版でなじみの作品もじかに接するとかなり印象が異なることを実感できたこと、授業で勉強した数々の作品に直面し感動を新たにしたことなどがありました。また、並はずれたスケールの宮殿建築に圧

倒される一方、必ずしも清潔とはいえないパリの街角の様子にフランスの疲弊を感じたりと、フランスの古今の社会や文化について新たな関心を抱いたようです。また西洋近世の美術を卒論のテーマにして

意欲を掻き立てていました。短い期間でしたが、美術とともに濃密な時間を過ごしたことが、今後の勉学、人生にどんな形で生されるのか、大いに楽しみです。

美術学部美術文化コース
准教授 栗田秀法



ノートルダム大聖堂

オランジュリー美術館
ルーヴル美術館

美術学部

デザイン学部

オープンキャンパス2011
[スプリング編]

歓迎ムード満点の西キャンパス正門

「新たな出会いが始まる。
キミのカタチを探しに行こう。」

美術学部・デザイン学部のオープンキャンパス『スプリング編』が、3月27日(日)に開催されました。春間近とはいえ、まだ少し肌寒さが残る午前10時。予定通りオープンキャンパスがスタートしました。会場の西キャンパスには、アーティストやデザイナー、クリエイターなどを夢に見る高校生や、その父母たちが、開始時刻前から大勢つめかけていました。

名古屋芸術大学として2011年最初のオープンキャンパスです。そのため、今回が初参加という方も多く、ちょっぴり緊張気味で会場入りする姿がとても初々しく感じられます。最初にデザイン棟前に設置された総合受付で受付手続きを済ませます。受付では当日のプログラムや学校パンフレット、入試ガイドなどを受け取ります。

現役講師からデッサンを学べるチャンス!
人気の「デッサン講習会」を体験

催しの中でも常に高い人気を誇るのが、特別講座「デッサン講習会」です。この講習会では、デッサンの重要なポイントを、分かりやすく解説し、アートやデザインの基本を楽しみながら学べます。日頃から名古屋芸大のキャンパスで教鞭を執る講師陣が、参加者のデッサンに対して直接アドバイスをしてくれます。今回のオープン

キャンパスでも多くの参加者がエントリーして、真剣な眼差しで、白いキャンパスに鉛筆を走らせていました。この「デッサン講習会」は美術系大学を目指す受験生にとってはまたとない機会です。美術学部とデザイン学部では会場やモチーフが異なるので、2度、3度と講習会に参加する高校生も多いのが特徴です。なお、この「デッサン講習会」の受け付けは、オープンキャンパス開始時間の30分前(9:30-10:00)。早めにエントリーしないと定員オーバーで涙を呑むこともあるのでご注意ください。

「名古屋芸大の歩き方」キャンパスツアーで
あなたも名古屋芸大マスターに!

名古屋芸大の西キャンパスには、アートやデザインを実践する施設がたくさん揃っています。そのため、プログラム表を見ればみるほど「どこから見て回ればいいのか迷ってしまう」という参加者の声も聞こえてきます。そんな時は「キャンパスツアー」へ参加するのが便利です。この「キャンパスツアー」は、名古屋芸大の在校生がツアーコンダクターとなり、施設の説明をしながら参加者と一緒に西キャンパス内を回ってくれるというサービス。この日も多くの高校生やその父母たちが西キャンパス内を巡るツアーに参加して人気を博していました。この

「キャンパスツアー」の魅力は、施設を迷わずに効率よく回れるだけではなくありません。ツアーコンダクター役の在校生から、授業やキャンパスライフなどの生の声を聞けるということです。「学校案内やホームページでは分からない、リアルなキャンパス情報が聴けて良かった!」と参加者の高校生は目を輝かせていました。この「キャンパスツアー」に参加するには、当日受付でのエントリーが必要です。このツアーを上手に活用すれば、あなたも名古屋芸大マスターになれるかもしれません。

現役vs.卒業生。名古屋芸大には注目の
アーティストや人気クリエイターがいっぱい!

ここでとっておきの情報を報告します。今回の参加者全員に、プログラムや資料を収めた特性トートバッグが渡されました。この名古屋芸大特性トートバッグにプリントされたイラストは、デザイン

学部イラストレーションコース卒業生堀越耕平さんの作品。実はこの堀越さん。在学中にあの超人気マンガ誌の週刊少年ジャンプに読切りが掲載され、卒業後は連載をスタートさせて注目を集める人気マンガ家です。この堀越さんも、名古屋芸大のキャンパスでアートやデザインを学び、夢をカタチにした1人。今回のオープンキャンパスでもサポートスタッフとして、未来の名古屋芸大生のためにお手伝いをしてくれました。このトートバッグは堀越さんのファンにとっては宝物ですね。堀越さん以外にも、名古屋芸大の卒業生にはアートやデザインの世界で活躍する方が大勢います。例えば、人気アニメのメカデザインで有名な山下いくとさんも名古屋芸大OBの1人。そんな先輩たちに支えられる名古屋芸大で、未来のアーティストを目指してはいかがでしょうか。



木工工房では制作途中の作品がお出迎え?



美術学部「デッサン講習会」。モチーフは静物や石膏、モデルから選択



初めて見る撮影スタジオに参加者一同ビックリ!



デザイン学部1年生の選抜作品に思わず唸る。上手い!



木工房では作業内容や機器の使い方をレクチャー



持参作品の評価は良くも悪くも嬉しいもの



人気マンガ家堀越さんイラストのオリジナルトートバッグ



隠れ家みたいな洋画アトリエは想像力が膨らむ



制作中の在校生を日本画アトリエで発見! こういう姿に憧れる

大学総合

東/西キャンパス 新入生歓迎会レポート

東キャンパス



今年の新入生歓迎会は東日本大震災発生まもなくであったために、一時期は開催を中止しようかという話が行われました。ですが、私が大学生になったのだと自覚したのは過去に先輩方が準備して開いて頂いたこの新入生歓迎会に参加したからです。だから、新たな後輩にも大学生として学生生活四年間を始める大事な日をなんとしても経験させてあげたい一心

で、開催1週間前でしたが地域住民の方々のお声も尊重し、予定していた外でのプログラムを室内へと急遽変更しました。

様々なアクシデントに苛まれながらも、無事成功できたのは誰も口にはしていませんが、『あきらめない』という共通の気持ちを自治会員全員が持っていたからだと思います。

今後、名芸祭に向け既に自治会は動きだしましたが、私達の前にはまた多くの問題が現れると思います。ですが、全員一丸となりこれらに立ち向かえるようにリーダーである私が皆を引っ張って行きたいと思います。

東キャンパス新歓実行委員長
荒木翔平

西キャンパス



今回、2011年度西キャンパスの新入生歓迎会実行委員長をやりました。

最初の頃は、自分が入ってくる新1年生をうまく迎え入れる事は出来るのだろうかとか色々な葛藤が巡っていましたが、今こうしてここにいるのも1年前に僕らも新歓をやってもらったからだと思ひ、新歓長としてやる事を決意しました。

僕は新歓中にこれだけはやっておきたい事があって、それは仲のいい友達だけで迎え入れるのではなく、名芸新2年生で迎え入れよ

うと思ひ色々な学科に勧誘をしに行きました。そのかいあってか、会った事も無い人や見た事も無い人が集まり例年より多い人数になり、本当の達成に一歩近づきました。

でもそれと同時に、こんなに大人数をまとめる事が出来るのか楽しませられるのか？

新歓が終わるまでに色々なことが起きました。時間が経つにつれ不安は募りましたが、まずは自分たちが楽しまないといけないと思ひ全力でやりきりました。

そして、当日を終えたとき言葉にできない達成感を感じました。

新1年生が本当に楽しんでくれたかどうかは分からないですが、来年同じ事をしてくれることを願っています。

西キャンパス新歓実行委員長
齋藤世一

大学総合

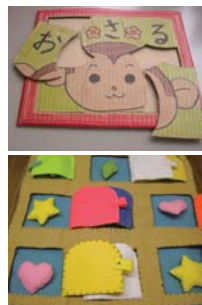
東日本大震災の募金・支援活動 への取り組み

このたびの東日本大震災で被災されました皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆様のご健康と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

本学では、震災発生直後の3月13日、卒業制作展最終日から募金活動を開始し、一週間後に行われた2011年度のミュージカル公演の会場受付における募金活動や、3月23日には、卒業式会場及び卒業記念パーティー会場で募金

活動を行いました。その後も、各種演奏会・公演会や展覧会の会場受付で募金活動をしております。また、東西両キャンパスの事務棟受付カウンターに募金箱を常設し、学生・教職員をはじめ学外からの来場者の方にも募金を呼びかけています。

学生の自治会は、新年度のオリエンテーションがスタートした4月5日から募金活動をはじめました。人間発達学部の学生たちは、



人間発達学部生による
手づくりおもちゃ

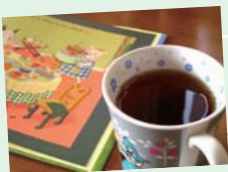


東日本大震災チャリティーコンサートに出演した
本学OBの皆さん

被災地の保育園・幼稚園・施設などの子どもたちに送るための玩具やお絵かき帳、絵本や童話などを収集したり、オリジナルなおも

ちゃを制作したりしています。また、人間発達学部の主催で行われた「文化・芸術交流の集い」のビデオ録画DVDと写真を学生や学

Column NUA No.13



絵本の中の「秘密のサイン」

美術学部教養部会講師 早川 知江

絵本が好きで、よく読みます。

よく読むといっても、たくさんの絵本を片端から読むというよりは、気に入ったものを何度も繰り返し読むほうです。最初の数回はストーリーを楽しみ、後はひたすら、1頁1頁の絵をじっくりと、はしからはしまで観察します。

登場人物はもちろんのこと、食器棚に並んだカップやお皿だとか、壁際にこっそりいるネズミだとか、そういったものまでひとつひとつ、自分がそこにいるつもりでじっと見ます。

そうしていると、絵の中に思わぬ「仕掛け」というか、作者のいたずらのようなものを見つけることがあります。

同じ部屋を描いた絵なのに、頁ごとに、壁の額縁の絵が少しずつ変わっているとか。置き物の人形なのに時々ポーズが違うとか。そういったいたずらを見つけては、「ふふ」とひとり笑いしてみるのも楽しみの一つです。

絵本編集者として有名な松居直氏は、著書『絵本とは何か』（1973年、日本エディタースクール出版部）の中で、作者が仕掛けるこうしたいたずらを、作者から読者への「秘密のサイン」と呼んでいます。「読者が気づかなく

ともよい。しかし誰が気づくかもしれない。誰が気づくだろう。そんなことを考え、ひとりでにやにやしながら」作者はサインを送るのだといひます。

確かに、この「秘密のサイン」は、誰にでも見えるものではないようです。同じ絵本をもっている友人に、「クマさんの部屋に掛かっている絵だけど、中の人が最後だけ手を振ってるの、見た？」などと言ってみても、たいてい怪訝な顔をされるだけです。ところがその家の子どもは、「見た見た」と身

内関係者に販売し、その収益金を義援金として送りました。

さらに、本学音楽学部卒業生によるチャリティーコンサート（4月28日 電気文化会館）を開催。

また、5月4日・5日のゴールデンウィークに実施された“がんばろう！日本「被災地応援エキスポパレード”では、音楽学部電子オルガンコースが5台の電子オル

ガンによる『スペース・ファンタジー』という15分のパフォーマンスを創作（制作プロデュース、作編曲、演奏指導など全面的に支援）し、鷹野雅史准教授の指揮で

東海地区の小学生4名により演奏されました。

このように、名古屋芸術大学グループ全体として募金・支援活動に取り組んでいます。

グループ校特集

学校法人 名古屋自由学院 名古屋芸術大学グループ 滝子幼稚園



「遊び」を大切に
した教育を行っています。
この時期に思い切り遊ぶことで、その後の学びや創造性が豊かにふくらんでいきます。

教育理念

一人ひとりの個性を大切に
した豊富な生活体験により、その子らしい考え方や取り組み方を実現していく過程を大切にします。

教育目標

- 心身ともにたくましい子ども

- 情操豊かな子ども

- 知的好奇心の旺盛な子ども

教育の特色

- 「幼児にはていねいに」「保護者にはくわしく」「地域にはあまねく広く」かかわる。「共に学ぶ親」「子育てを楽しむ親」の

育成のため「子育て講座」を開講する。

- 遊びを中心とした幼児にふさわしい生活を通して、主体的活動を促す。「知・情・意」の「意」を重点に、自分の意志をもって行動できる子をめざす。
- 「みんな違って、みんないい」

「認め合い、高めあい、共に創りあげる。」一人ひとりを受け入れ、その良さを評価し伸ばす。

- 滝子キャンパス内外の自然体験や、学生・地域の人々とのかわりなどの社会体験を積極的に取り入れ、家庭・地域との信頼を深め合える関係を築く。
- 想像力、表現力を成長させるために、絵本の読み聞かせを積極的に取り入れ、豊かな感性を培う。
- 学び続ける教師のあたたかい見守りと必要な援助により、幼児の生きる力の基礎を育成する。

年間行事予定



4月 入園式・始業式
年少個人懇談会



5月 こどもの日大会
春の親子遠足・内科検診



6月 家族ふれあいの日参観
歯科検診・虫歯予防デー



7月 七夕参観・親子給食
お泊り保育（年長）



8月 夏休み・夏季保育
夏祭り盆踊り大会



9月 入園願書配布・説明会
フリー参観・敬老会



10月 運動会・秋の遠足
避難訓練（豆消防士体験）



11月 芋掘り遠足・お芋パーティー
作品展・人形劇観賞会



12月 クリスマスコンサート
（音楽発表会）個人懇談会



1月 冬休み・保育参観
もちつき大会



2月 豆まき・生活発表会
一日動物園



3月 ひなまつり会・懇談会
お別れ遠足・卒園式

をのりだして、自分が発見した他のサインについても得意げに教えてくれたりします。

この違いは一体どこからくるのでしょうか。松居氏は以下のように述べて、こうしたサインを見つけるのは、大人より子どもの得意技だと説明しています。「大人はさほどこうした細部には留意しませんが、子どもは反対に、こうした細部の書きこみをすぐみつけます。このみつける力と眼が子どもの特色です。大人は絵本の画面を全体に

大づかみにみえます。観賞するといってもよいでしょう [中略]。ところが子どもは、部分を、細部をみえます。すみからすみまでなめるようにみてゆきます。」

確かに、たいていの大人は絵本の絵を「観賞」し、その美しさやうまさを評価するのでしょうか。しかし子どもにとって、絵本は外から観賞するためのものではありません。中に「出かけて」いくためのものです。絵の中の世界に行き、そこにあるものひとつひとつを

じっくりと観察し、その世界で起ることを自分で体験します。だからこそ、大人の眼に見えない細かなものにまで目をとめるのでしょうか。

こんなふうな、同じ絵でも、見えるものが人によって違うとは興味深いことです。この説に従えば、同じ絵を飽きずに眺めては悦に入っている私も子どもと同類になってしましますが、そのおかげで、大人に見えないものが見えると思えば得かも知れません。絵本なんて子ども騙し、といわずに、今日

は目線を変えて、その世界を覗いてみませんか。いつもは見えないものが見えるかも知れません。





マスター ↑↓to アーティスト



【第13回】

< 我思う、ゆえに… >

水内智英 デザイン学部
講師

(みずうち ともひで)

岡山県生まれ
2004年 武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業
2004年 武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科研究室勤務
2005年 渡英
ロンドン大学ゴールドスミス校デザイン学部大学院
DesignFutures 入学 John Woodらに学ぶ
主にメタデザイン、デザイン方法論、デザイン論を専門に研究
2006年 修了研究及び論文
「Relation in Design - a relational approach to a new understanding of design」
ロンドン大学ゴールドスミス校デザイン学部大学院
DesignFutures 卒業
株式会社 Raw-Nerve 入社 デザイナーとして勤務
(コンセプトメイキング、ブランディング、グラフィックデザイン、
デザインリサーチ、ウェブデザイン等)
London Design Festival - Deptford Design
Deptford Design Market Challenge
TENT London - Marketing materials
RSVP project
London City Growth - South Eats 他

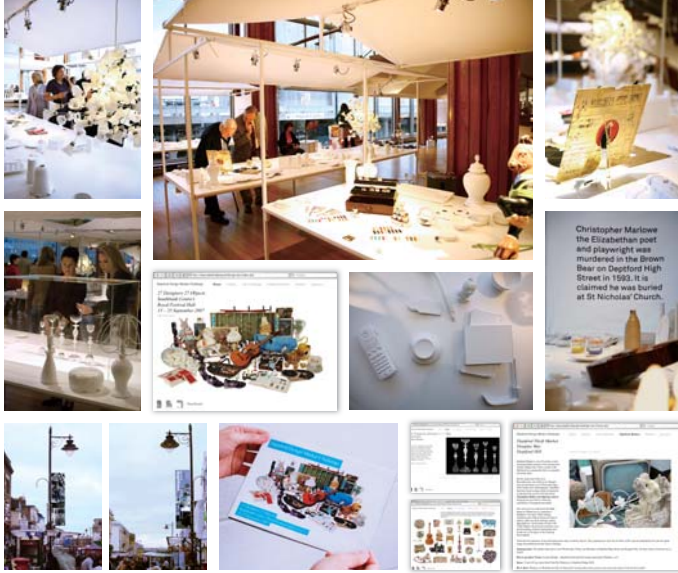
美術を志す者、デザインを志す者の間で、繰り返し問われる命題の一つが、デザインとアートの違いはなにか？ ではないだろうか。これに対する答えの一つが、作品を生み出すための動機の違いといわれる。いわく、自分の中に見いだすのがアート、社会の中に見いだすのがデザイン、であると。自己の中に創作の動機を見つけられるものがアートであり、社会の中の一定の目的のために行われる創作がデザインであると説明される。この考え方は、かなり明確に、デザインというものの立ち位置を定義していると思わ

れる。それでは、さまざまな目的を持って行われているデザインという行為は、本当に、社会に役立っているといえるだろうか？

「大学の受験に当たって、美術科にするかデザイン科に行こうか誰でも迷いますよね。その時に、手当たり次第にデザインに関する本を読みまくったんです。その頃、デザインっていうと、チャラチャラしたものだと思っていました。でも、読んでいくうちに、人の生活だとか、社会について考えることもデザインの一部分だとわかってきて面白い

など。形や美しさだけ、から入ったのではなく、デザインのそういった側面に惹かれてなんです」 大学では基礎デザインを専攻、デザインの意味を、原点に立ち返って人や社会の関わり合いの中から捉え直して考えることを学んだ。さらに留学したロンドン大学では、メタデザインという、社会の中でデザインそれ自体をデザインしていくような、より大きな概念を研究した。「デザインするということは、“もの”をデザインすると同時に“こと”をデザインすることなんです。例えば、電話をデザインするということは、“電

◆Deptford Design Market Challenge (2007年)



Deptford・デザイン・マーケットチャレンジ (クリエイティブ・ディレクション: Rebecca Molina, デザイン, 展示デザイン: Phebe Jenkins 共作)

南東ロンドンに位置するDeptfordは古くからの歴史を持つが、産業構造の変化と移民の流入によってかつての勢いを失ってきた。近年、ロンドン政府はデザイン産業やアーティストを積極的に誘致し、もの作りによる地域の活性化を進めている。
Raw+Nerveはロンドンデザインフェスティバルと共同で展示を企画。南東ロンドンを新しい創造的な地域として確立するためには、ロンドン中心部と南東ロンドンとの心理的な距離を縮める必要があると判断した。コンラン脚やスチュワート・ヘイガースをはじめとするロンドンを拠点とし、世界的に活躍するデザイナー27人にDeptford蜜の市で見つけた品のリデザインを依頼した。
展示会はテートモダンやロンドンアイなどが位置しロンドンの文化的中心地として栄えるサウスバンクで行われた。



- 2008年 日本帰国
Metadesign network Japan (日本でのMetadesign研究活動)を中村真梨子、松尾真吾らと組織
Dialogue01: インタビュー映像作品 (ロンドンデザインフェスティバル2008出品)
港区芝地区地域昭和の地域力再発見事業に参加 (慶応義塾大学、港区共同事業)
- 2008年 Wieden+Kennedy Tokyo LLC 入社
デザイナーとして勤務
Google Japan キャンペーン
NIKON ブランドブック
KUMON 10周年キャンペーン 他
- 2009年 no problem LLC 入社
キリンビール 新商品開発 「本格く辛口麦」
JAXA COSMODE PROJECT ブランドブック 他
- 2011年より現職
基礎デザイン学会員

話機”そのものの形を考えると同時に、“話す”ということデザインすることなんです。名詞と動詞と言いますか、最近では名詞の部分ばかりが先行して、より社会の中で大切にされなければならない動詞的な部分を忘れていくというか……。」 現在は、世の中のありとあらゆるものが、デザインされたものになってきている。しかし、同時に形や目先のことばかりにとらわれたものばかりが増えている。そんな現在を憂いている。

デザインは、より使いやすいもの、

より洗練されたもの、より心地良いもの、を追求してきた。しかし、そのより良きは、過去の事象に対して、あるいはライバルの他社製品に対してといった相対的なものでしかなかった。そうではなく、もっと広い視野でデザインを捉え直し、本当の問題や進むべき道を考察し、新たな可能性や課題を探ることが、基礎デザインやメタデザインが取り組んでいることの一つという。「考え方を考える、ということです」。

「デザインというのは、色や形だけじゃない。もっと自由で、もっと

◆Re-Imagining the Neighborhood (2011年)



Metadesigners network Japanが主催し、港区「芝の家」で行ったワークショップ。2部構成で、前半は芝の町を歩き、町の様子や気づきをグループで共有した。後半はそれらの気づきをもとに、30年後の理想的な芝地区がどうあるべきか、アイデアを探った。
また、地域とデザインに関するレクチャーも同時に開催した。

<http://www.metadesigners-japan.net/jp>

◆Dialogue 01 (2008年)



Metadesigners network Japanによるもの。様々な異なる分野の専門家たちとメタデザインが扱うキーワード:「環境」「複雑性」「予測できないこと」「それぞれが望む夢」を基に「対話」し、それを映像としてまとめた。
対話協力: 山下英三郎氏 (ソーシャルスクールワーカー / 日本社会事業大学教授)、高井敬空氏 (僧侶/仏教家)、ウエタ家 (酵母研究者)
一般的にはデザインと異なる分野であると思われている専門家たちと、取って、「デザイン」という言葉を一切使わず行われた対話から、デザインがこれから扱っていかなければならない重要な視点を浮かび上がらせる。

広くて、もっと責任のあるもの。あまりにも考えなしにデザインされている現在の状況に、声を上げ続ける人間になりたいと思うんですよ」。

デザインの在り方を正面から問うこと。デザインの思考に、「我思う、ゆえに我在り」のような第一原理を定義するような壮大な試みであり、これまでのデザインの在り方を揺さぶる可能性もある。「答えは、『無い』のかもしれませんが、次の世へ進むためのカギが見つかりそうな、そんな予感に満ちている。

2011年6月～10月までの主な行事・イベントスケジュール

※予定は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

音楽学部

- オープンキャンパス
6月18日(土)10:00～
本学東キャンパス
- コンチェルトのタベ
7月14日(木)18:30開演予定
三井住友海上しらかわホール
- 夏期音楽講習会
8月2日(火)～8月5日(金)
本学東キャンパス
- 第13回ピアノ・サマーコンサート
8月8日(月)17:00開演予定
本学東キャンパス3号館ホール
- オープンキャンパス
9月25日(日)10:00～
本学東キャンパス
- ウインドオーケストラ 第30回定期演奏会
9月30日(金)18:30開演予定
愛知県芸術劇場コンサートホール
- 研究生特別演奏会
10月13日(木)18:00開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- オーケストラ 第29回定期演奏会
10月20日(木)18:45開演予定
愛知県芸術劇場コンサートホール

美術学部 デザイン学部

- 入試教育懇談会
6月3日(金)15:00～
名古屋マリオットアソシアホテル
- オープンキャンパス サマー編I
6月12日(日)10:00～
本学西キャンパス
- 2011年度夏の企画展
浅葉克己、U.G.サトー、松永真
「3人のポスター」展
6月17日(金)～7月6日(木)
本学西キャンパスA&Dセンター

- 広告表現論公開講座
U.G.サトー氏(イラストレーター)
6月22日(水)16:30～
本学西キャンパス
- 広告表現論公開講座
松永 真氏(グラフィックデザイナー)
6月29日(水)16:30～
本学西キャンパス
- 広告表現論公開講座
浅葉克己氏(アートディレクター)
7月6日(水)16:30～
本学西キャンパス
- オープンキャンパス サマー編II
7月17日(日)10:00～
本学西キャンパス
- 素材展
7月22日(金)～8月3日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- 一日芸大生
7月31日(日)10:00～
本学西キャンパス
- 2011年度秋の企画展
「ネーデルランド・ナウ2011;
リーヴェン・ヘンドリクス×満江英典」展
9月16日(金)～9月28日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- オープンキャンパス オータム編
9月25日(日)10:00～
本学西キャンパス
- 「Hand Hospeace :医療と美術」展、
「パーモントと名古屋2011」展
10月14日(金)～10月19日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター

人間発達学部

- オープンキャンパス
6月18日(土)10:00～
本学東キャンパス

- オープンキャンパス
7月23日(土)10:00～
本学東キャンパス
- オープンキャンパス
8月27日(土)10:00～
本学東キャンパス
- オープンキャンパス
9月25日(日)10:00～
本学東キャンパス

芸大祭(全学同日開催)
10月27日(木)～29日(土)
本学東西両キャンパス

名古屋芸術大学保育・福祉専門学校

- 体験入学 13:00～16:00
5月21日(土)・6月18日(土)・
7月9日(土)・7月23日(土)・
8月6日(土)・8月27日(土)・
9月3日(土)・9月10日(土)
- 入学選考日
9月17日(土)・10月8日(土)・
10月22日(土)・11月12日(土)・
11月26日(土)・12月17日(土)・
1月28日(土)・2月18日(土)
- 進学相談会 10:00～12:00
10月29日(土)・11月19日(土)・
12月3日(土)・1月14日(土)・
2月4日(土)
- 学校祭
9月29日(土)10:00～

附属クリエ幼稚園

- 親子ふれあいデー
6月4日(土)9:00～
大学 体育館
- 親子で吹奏楽を楽しもう
6月25日(土)10:30～
大学 音楽講堂

- クリエまつり
7月9日(土)16:30～
大学 テニスコート
- お泊り保育
7月15日(金)・16日(土)
幼稚園
- おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ日
9月17日(土)9:30～
幼稚園
- 運動会
10月15日(土)9:00～
大学 テニスコート
- 遠足
10月下旬予定 9:00～
観光バス利用

滝子幼稚園

- 家族ふれあいの日
6月19日(日)
- セタ会
7月7日(木)
- 年長お泊り保育
7月20日(水)・21日(木)
- 夏季保育
(全国幼稚園研究大会公開保育)
8月1日(月)
- 夏祭り
8月27日(土)
- 平成24年度入園説明会・体験入園
9月10日(土)
- おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ日
9月中旬予定
- 運動会
10月16日(日)

編集後記

本学では、人間発達学部がこの3月初めての卒業生を送り出し、同時に4月からは大学院人間発達学研究科が充足しました。これにより、名実共に、音楽・美術・デザイン・人間発達4学部と4大学院研究科を擁する私立総合芸術大学となりました。今回の特集は、この大学院人間発達学研究科に焦点を当て、その研究目標や具体的に何を学ぶのかなどについて、研究科長の佐藤勝利教授にお聞きしました。また、グループ校の名古屋保育・福祉専門学校が、この4月から、名古屋芸術大学保育・福祉専門学校に校名を変更しました。これは、大学との連携強化による教育内容の充実や3年次への編入、さらに、幼稚園や小学校教員免許など学生の資格取得の機会を増やすことを目的と

したもので、これらの内容をご紹介します。
ニュース&トピックスでは、恒例の学年度末また、新年度の諸行事を取材しましたが、特に今回は、東北・関東地方に未曾有の災害をもたらした東日本大震災について、その募金活動に励む学生や卒業生を中心とした大学関係者の活動を取り上げました。被災された方々とその関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本誌へのお問い合わせやご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください。
grouptu-shin@nuu.ac.jp



大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。



表紙の写真

実習生のはなしを熱心に聴いている子どもたち(附属クリエ幼稚園にて)

発行:名古屋芸術大学
編集:全学広報誌編集委員会
制作:(株)クイックス
発行日:2011年6月2日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nuu.ac.jp